

# 平成18年漁況通報(年報)

平成19年3月8日  
大阪府立水産試験場

## 巾着網

カタクチイワシが8～10月にかけて豊漁であった(図1)。

コノシロは6～12月に漁獲された。(図2)。

## 船びき網(南部標本組合)

イカナゴ漁は3月のみであったが、漁獲量は一昨年並であった(図3)。

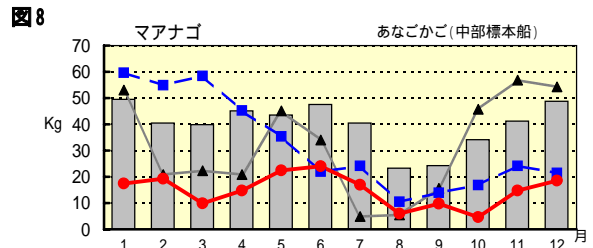
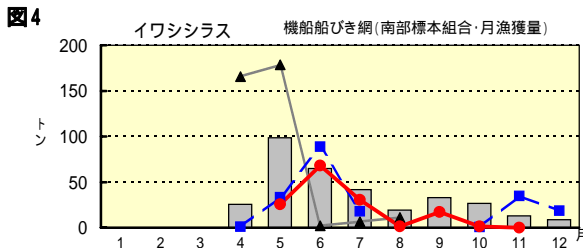
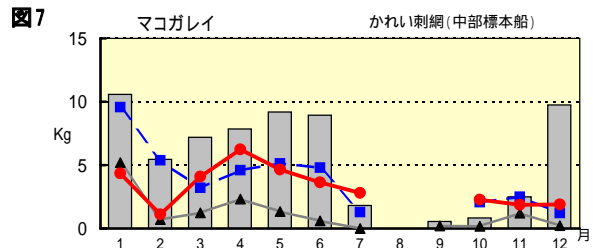
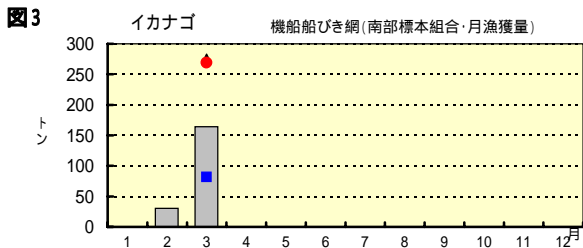
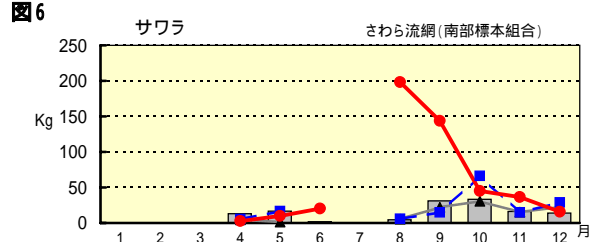
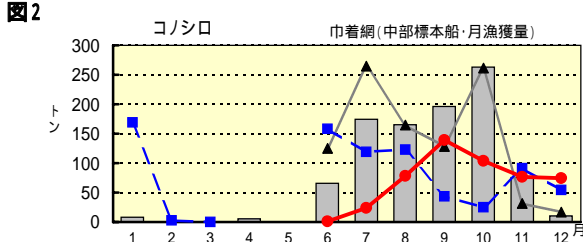
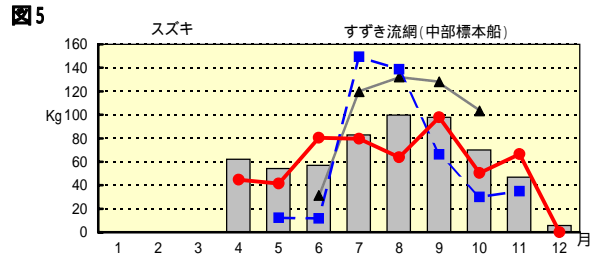
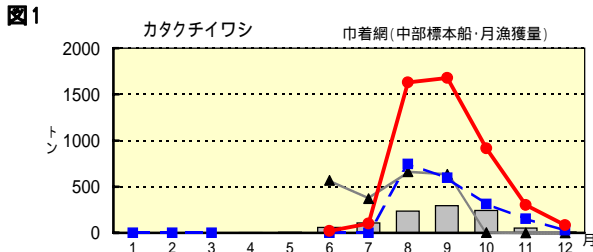
イワシシラスは、5～7月に春漁が行われ、6月は平年並であったが、その他の月は少なかった。秋漁は、9月を除いてほとんど漁獲がなかった(図4)。

**すずき流網:** 中部標本船は4～11月に漁が行われ、年間を通じ、平年並の漁獲であった(図5)。

**さわら流網:** 南部標本組合のサワラは、春漁は終漁期近くにまとまった漁獲が見られ、秋漁は8月以降、平年を大きく上回る1歳魚を中心とする漁獲が続き豊漁であった(図6)。

**かれい刺網:** 中部標本船のマコガレイは、1年を通じて不漁であった(図7)。

**あなご籠:** 中部標本船の漁獲量は、1年を通じて平年を下回り、非常に不漁であった(図8)。



■ : 平年値(縦棒)      ● : 平成18年      -■- : 平成17年      ▲ : 平成16年

図1・2は標本船の月漁獲量(t)、図3・4は標本組合の月漁獲量(t)、それ以外は1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

タチウオひきなわ釣り：中部標本組合は9～12月に漁が行われたが、12月以外は平年を下回った(図9)。

小型底びき網

石げた網(中部標本組合)

マコガレイは、周年きわめて不漁であった(図10)。

メイトガレイは、4月に平年並みの漁獲があったが、それ以外は不漁であった(図11)。

シタ類は、周年ほぼ平年並みであった(図12)。

ネズッポ類(ガッチョ)は、周年、不漁であった(図13)。

マアナゴは、7月に平年並みの漁獲があったが、それ以外はきわめて不漁であった(図14)。

ガザミ(ワタリガニ)は、昨年に比べて周年不漁であった(図15)。

ヨシエビ(シラサエビ)は、周年平年以下の漁獲であった(図16)。

クマエビ(アシアカ)は、10～12月に平年以上の漁獲があった(図17)。

小エビ類は、8月以降非常に豊漁であった(図18)。

図9

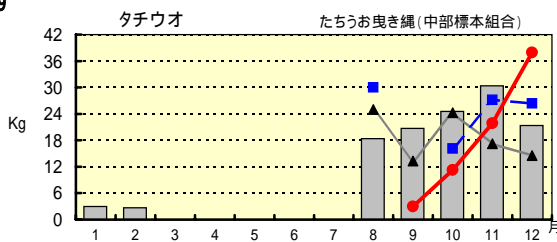


図14

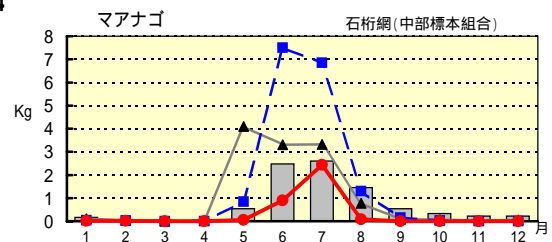


図10

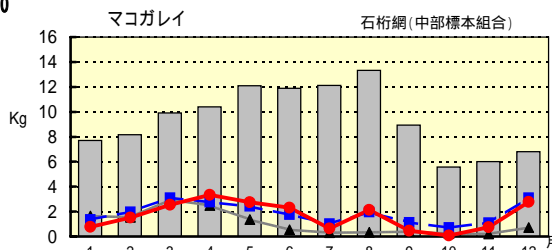


図15

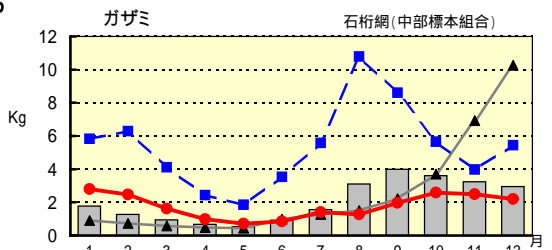


図11

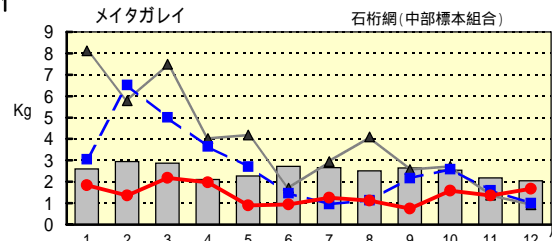


図16

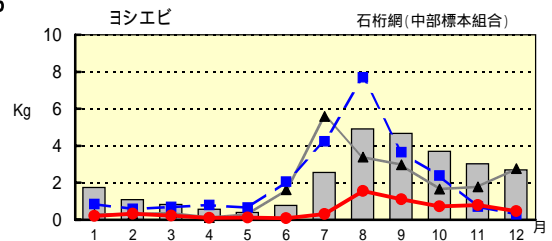


図12

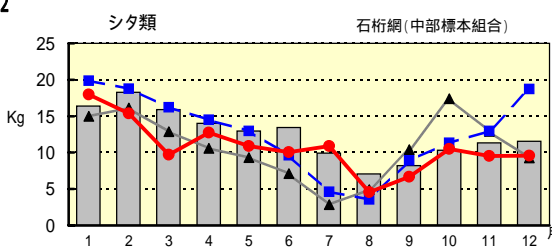


図17

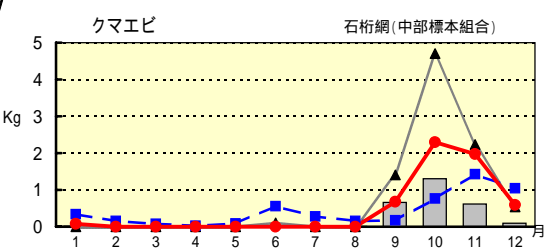


図13

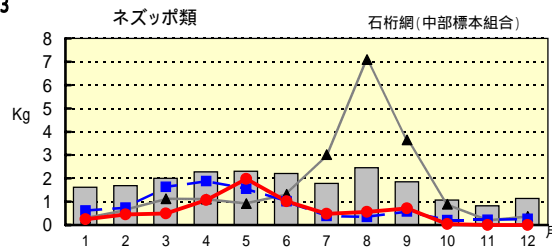
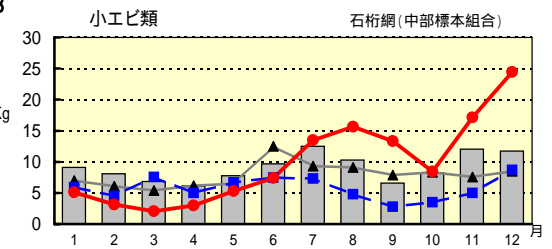


図18



■ : 平年値(縦棒)      ● : 平成18年      ■ : 平成17年      ▲ : 平成16年

1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

シャコは、周年不漁であった(図19)。

マダコは、7・8月に非常に不漁であったが、それ以外は平年並みであった(図20)。

コウイカ類は、4・5月と11・12月に平年を上回った(図21)。

トリガイは、1月から7月にかけて、平年を大きく上回ったが、8月以降激減した。(図22)。

### 板びき網

中部のアジ類は、6月に平年以上の漁獲があったが、それ以外は平年以下で推移した(図23)。

中部のスズキは、3・4月は好漁であったが、それ以外は平年並みであった(図24)。

中部のタチウオは、1月と12月は好漁であったが、それ以外は平年並みであった(図25)。

中部のマナガツオは、11月に好漁であった(図26)。

中部のイボダイ(ウボゼ、シズ)は、ほぼ平年並の漁獲であった(図27)。

中部のシログチ(クチ)は、1月から4月にかけて好漁が続いた(図28)。

図19

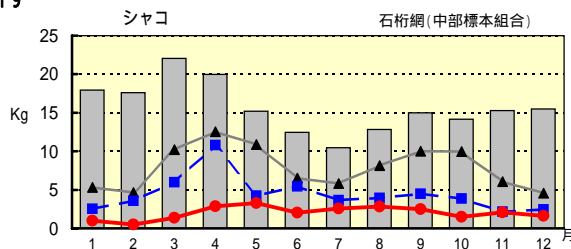


図24

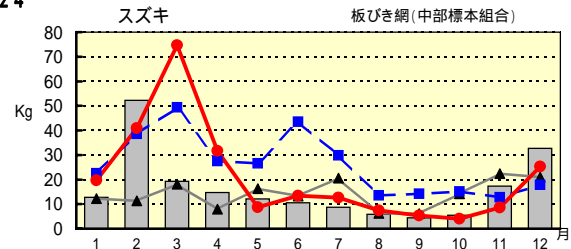


図20

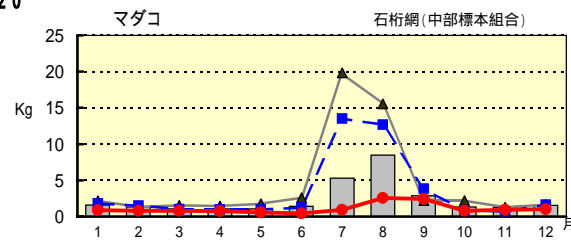


図25

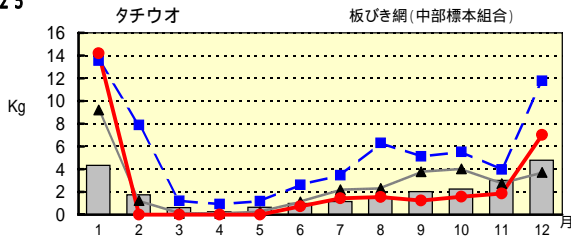


図21

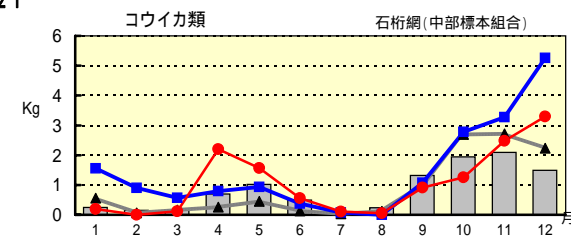


図26

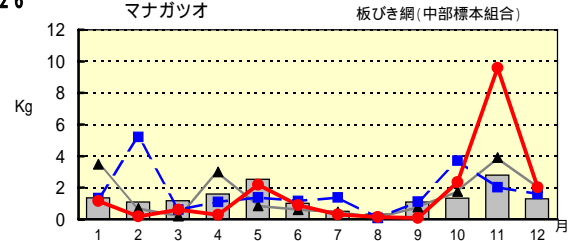


図22

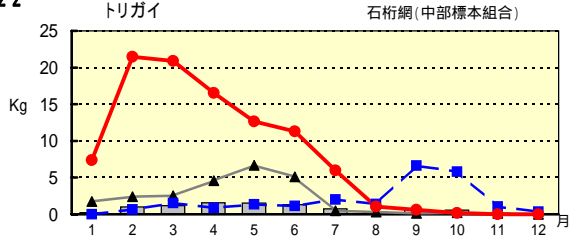


図27

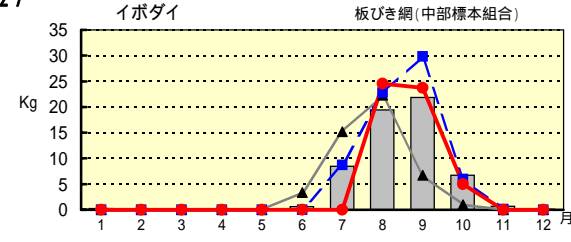


図23

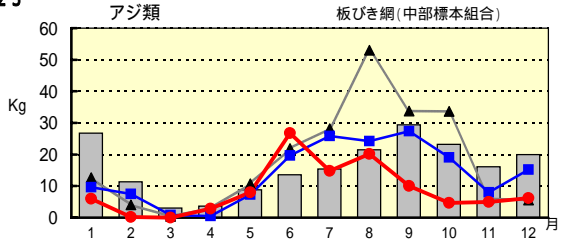
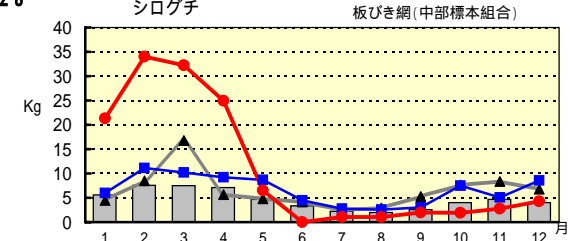


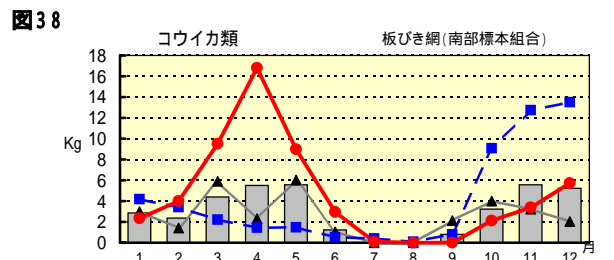
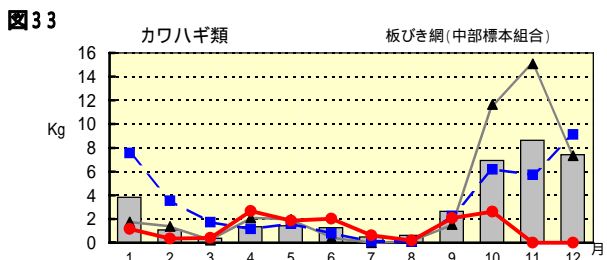
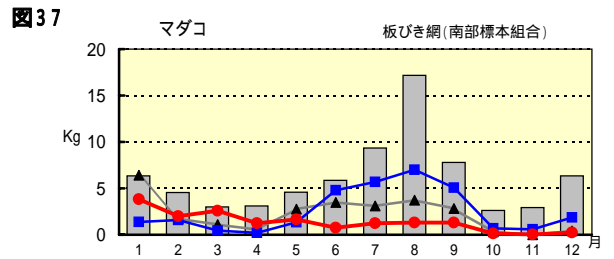
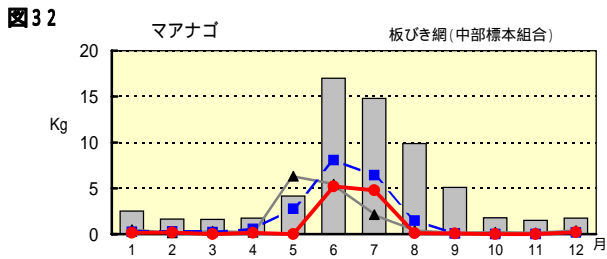
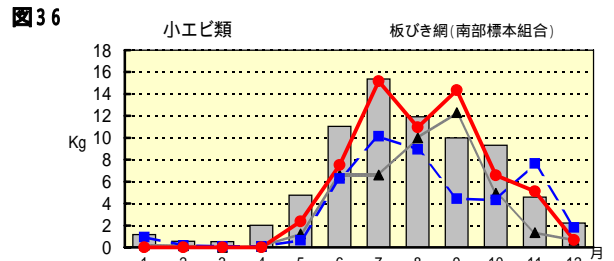
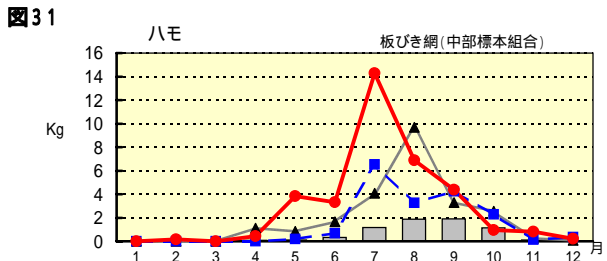
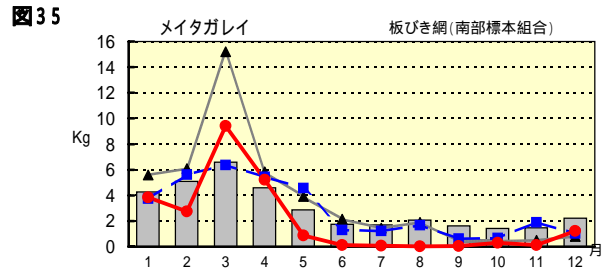
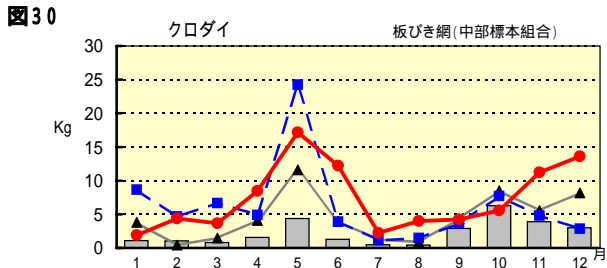
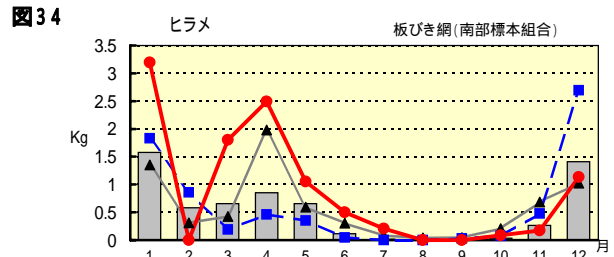
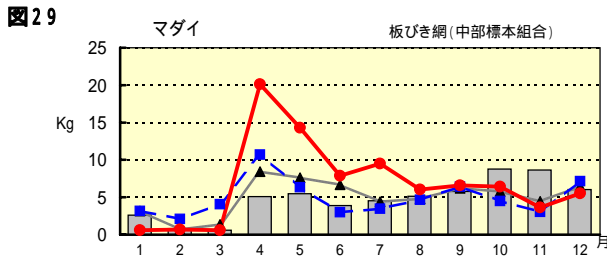
図28



■ : 平年値(縦棒)      ● : 平成18年      ■ : 平成17年      ▲ : 平成16年

1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

中部のマダイは、4月から7月にかけて、好漁が続いた(図29)。  
 中部のクロダイ(チヌ)は、周年好漁であった(図30)。  
 中部のハモは、5月から9月にかけて、好漁であった(図31)。  
 中部のマアナゴは、極めて不漁であった(図32)。  
 中部のカワハギ類(ハゲ)は、4月から6月は平年を上回ったが、それ以外は平年以下であった(図33)。  
 南部のヒラメは、年間を通じて、平年より多めに推移した(図34)。  
 南部のメイトガレイは、3・4月以外は、不漁であった(図35)。  
 南部の小エビ類は、周年ほぼ平年並で推移した(図36)。  
 中部のマダコは、年間を通じ不漁であった(図37)。  
 南部のコウイカ類は、3月から5月にかけて非常に豊漁であった(図38)。



: 平年値(縦棒)     
  : 平成18年     
  : 平成17年     
  : 平成16年  
 1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。